

■ JSNC2013 の案内

JSNC2013 の案内

山科 章

第 23 回日本心臓核医学会総会・学術大会大会長／東京医科大学 内科学第二講座

心臓核医学検査は虚血を画像で定量的に評価できる診断法として、この 30 年間余り中心的な役割を果たしてきました。最近では、形態学的に診断された狭窄病変に対する治療方針の決定に、機能的診断、すなわち虚血の証明の重要性が再認識されています。そこで、本学術集会では、「虚血の評価を改めて考える」をメインテーマとしました。

初日のイブニングセミナーでは、メインテーマとはすこし異なりますが、聖路加国際病院福井次矢病院長に「診療の質改善の試み：とくに循環器分野の Quality Indicator の有用性」、東京医科大学心臓血管外科荻野均教授に「大血管疾患の最新の治療：核医学との関連を含めて」の講演をいただきます。

2 日目には、「PET を用いた心筋血流および虚血の評価」として、2012 年に保険適応になった NH3-PET に加えて Rb PET について特別講演いただきます。シンポジウムは 3 題企画し、シンポジウム 1「虚血の評価と治療」では、心臓カテーテル (FFR)、核医学、

冠インターベンション治療の立場からとして 3 人の先生にディスカッションいただきます。シンポジウム 2 は、最近、話題の心臓専用 γ カメラをとりあげ、「半導体 γ カメラの現場から」を企画しました。シンポジウム 3 は、2012 年に FDG-PET が保険適応になったことに合わせて、「心サルコイドーシスをいかに診断するか」を企画しました。

新しい企画として「1 年間の不勉強を取り戻したい人のための心臓核医学セミナー」というテーマで最近の心臓核医学の展開をお二人の先生にご講演いただきます。そのほか、恒例の心臓核医学会賞、YIA 賞の受賞講演、一般演題の発表などを行います。

心臓核医学は多くの専門領域が関わっています。その発展には他領域の方々と意見を交換し、知識を共有することが重要です。できるだけ多くの先生方に参集いただき、意見を交換すると同時に face to face の交流を深めていただきたいと思います。